

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月16日

提出区分	実績	整理番号	1	課題区分	C
横断的な課題	上伊那地域の未来を担うひとづくり				
地域重点政策	地域産業を支える人材の確保				
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	商工観光課
事業名	Uターン就職促進事業			電話	0265-76-6832
				E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	地域の産業の担い手を確保するため、進学により上伊那を離れた学生のUターン就職を促進する。			
	現状と課題	○進学に伴い上伊那を離れる学生のうち、卒業後Uターンする者は少なく、地元産業の担い手となる若者人材が不足している。 ○県外へ進学した学生への連絡手段が乏しいため、効果的に就職イベント等の情報発信を行う手段を確保する必要がある。 ○現在、登録方法がLINE、ながの電子申請、郵送と複数あり、登録者の情報も登録方法により別々に管理しているため、登録者にとっての分かりにくさや、登録者情報の連携が課題となっている。			
	内容 (変更後の内容)	1 就職情報提供サービスリーフレット配布 ○登録方法を、学生にとって身近なSNSであり、機能面でも充実しているLINEに一本化し、登録情報を一元管理することでより効果的な情報発信を行う。またこれに伴い、登録のメリットが分かりやすいよう、リーフレットのデザインを大幅に改定する。 ○配布対象について、高校3年生のみに配布していたのを見直し、全学年に拡大する。また、市町村の協力のもと成人式で配布することで、すでに上伊那を離れた学生の登録も促す。併せて、保護者向けイベント時の配布や市町村での回覧等により、保護者にも周知する。 ○就活がまだ身近でない高校生への配布時期については、郷土愛プロジェクト等が実施するキャリア教育の各種イベントに合わせて配布するなど、多くの登録につながるよう検討する。 2 上伊那地区企業説明会の広報周知 令和5年3月に開催される今年度の上伊那地区企業説明会への参加促進のため、上伊那地域全域の全戸に配布されるフリーペーパー(月刊かみいな2月号)に企業説明会の広告を掲載する。			
	事業期間	令和4年7月		～	令和5年3月
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	就職情報提供サービスリーフレットの作成・配布	リーフレットの作成・配布	138,600	高校生向け4,000部×11円 保護者・学生向け7,000部×13.51円	
	フリーペーパー掲載	広告掲載委託費	257,400	B枠(180×248mm) カラー 81,700部	
	合計		396,000		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	就職情報提供サービス(LINE)新規登録者数		300名	252名	○ 達成
	上伊那地区企業説明会参加者		70名	84名	● 一部達成
					○ 未達成
事業実績・成果	○就職情報提供サービスリーフレットの配布 令和4年7月～令和5年1月にかけて管内の高校生等に計約11,000部を配布。新規登録者数は252名となった。市町村の回覧や学生向けの「応援便」、成人式などと連携し配布対象を拡大することで、新規登録者数を昨年度の24名から大幅に増やすことができた。 ○上伊那地区企業説明会の広報周知 令和5年3月10日に開催された「上伊那地区企業説明会」に向け、月間かみいな(1月27日発行/2月号)にイベントPRのための特集記事と広告を掲載した。2年ぶりの対面開催ということもあり、昨年度、一昨年度を上回る学生等の参加があった。				
今後の方向性	就職情報提供サービスについてはリーフレット配布にとらわれないより効果的な広報媒体について検討するとともに、引き続き上伊那広域連合や伊那職業安定協会などと連携しながら学生のUターン就職促進に努める。				

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C	令和5年(2023年)3月14日
横断的な課題	上伊那地域の未来を担うひとづくり					上伊那地域振興局
地域重点政策	伊那谷の未来を担うひとづくり					
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属	農地整備課
事業名	農業水利資産の郷土学習事業				電話	0265-76-6816
					E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	地域の農業を維持発展させるため、農業水利資産を活用した郷土学習の場を設け、地域を愛し地域を支える人材を育成する。				
	現状と課題	・上伊那地域は、高品質を誇る米や野菜をはじめとする農作物の一大生産地帯であるが、地域の人口減少と担い手農家の高齢化が進んでいるため、次代を担う若者への教育が必要。 ・管内の小学生向けに、身近にある農業用施設を題材とした現地見学会等を計画しているが、小学生が興味を持って学習に取り組めるような学習用教材が不足している。				
	内容 (変更後の内容)	・教材の作成活用 上伊那地域西部の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区のかんがい施設」の歴史や役割が学習できる教材を作成し、活用する。原稿は職員が直営で作成する。 (学習用冊子 24pカラー刷 500部、下敷き 両面カラー刷 500部) また、冊子の内容が分かりやすく、大人にも好評であった。県民にも広く周知したいので、来庁者への配布用に冊子を増刷したい。(冊子500部増刷) ・農業用水探検隊の開催 受益地内に暮らす小学生を対象に、作成した教材を活用した「現地見学会」を開催し、「施設を管理する方々や地域農家とのふれあいの場」を設け、地域を支えることの大切さを学習する機会を提供する。 見学施設に関係する4市町村12校(伊那市5校、辰野町2校、箕輪町3校、南箕輪村2校)を対象とし参加を呼び掛ける。				
	事業期間	令和4年7月		～	令和5年1月	
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額	備考	
	印刷費	学習教材等印刷		431,200	学習用冊子 389円 500部 194,700円 冊子増刷 198円 500部 99,000円 下敷き 275円 500部 137,500円	
	合計			431,200		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況
	管内小学校を対象とした現地見学会の開催			参加者100名	237名	● 達成
	学習教材の満足度を確認			50%以上	分かりやすかった 89%	○ 一部達成
						○ 未達成
事業実績・成果	・現地見学会には5校9クラスが参加した。 (伊那小、南箕輪村南部小2クラス、箕輪中部小3クラス、箕輪北小2クラス、辰野南小) ・実施後にアンケートを実施した。理解度が80%を超え、子供たちも興味を持って参加してくれた。 ・作成した教材についても分かりやすいとの評価をいただいた。 ・見学会の様子は、テレビ3社、新聞3社で報道され、広く県民に活動を周知された。 ・小学生から直筆の手紙をいただいたり、その後の学習で新聞作りなどに活用した学校もあった。 ・本取組については、「いいね！職員チャレンジ」で優秀賞として表彰された。 ・全国農村振興技術連盟から広報大賞優秀賞として表彰された。 ・西天竜土地改良区の皆さんへ本取組を紹介し、高い評価をいただいた。					
今後の方向性	未参加の小学校にも広く取組を周知したい。					

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C	令和5年3月31日	
横断的な課題	上伊那地域の未来を担うひとづくり						
地域重点政策	地域に学び地域を支える人材の育成					上伊那地域振興局	
実施機関	伊那建設事務所			担当課	所属	整備課整備第二係	
事業名	建設産業の魅力を実感プロジェクト事業				電話	0265-76-6852	
					E-mail	inaken-seibi@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	・官民協働による建設産業への理解拡大と次代を担う人材確保に向け、建設系学科高校生等を対象とした就労促進及び若手技術者の育成につなげる取組を実施している。この取組の一環として、生徒に対して建設産業の魅力ややりがいを実感出来る機会を設け建設産業への就職人数の増加を図る(里山コース20名の30%、R2実績15%)					
	現状と課題	・上伊那管内の建設系学科である上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科の生徒は近年建設産業への就職希望者が少なく管内建設業者への就職は数名に留まっている。学校関係者の聞き取りや近年の就職状況の傾向としては建設産業の業務内容や労働条件の情報が生徒に十分に伝わっていないため、建設系学科の生徒が製造業に就職するケースが多い。					
	内容 (変更後の内容)	・建設産業の魅力を実感してもらうため、実際の建設現場を学びのフィールドとし、第1戦で活躍する技術者の指導のもとで、測量・設計から工事までの一連のプロセスを自ら実践する機会を提供する。 ・令和2年度は学校敷地内の通路整備を実施。 ・令和3年度計画段階から、身近な公共施設である伊那市春日公園噴水跡地改修を生徒達自ら行うため、上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科里山コース3年生20人に対し指導を行っている。 ・令和4年度からは、現地の改修工事を伊那市、長野県建設業協会伊那支部及び長野県測量設計業協会南信支部の協力を得て約3年の期間で実施を予定している。					
	事業期間	令和4年6月		～	令和4年12月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額		備考
	広場造成工事		路盤工事		1,122,000		
	生徒による舗装工事		インターロッキングブロック購入		817,080		
	合計				1,939,080		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科里山コース建設産業への就職人数			コースの30% (6人)	1人	○ 達成	
						○ 一部達成	
						● 未達成	
事業実績・成果	【事業実績】 内容 : 公園噴水跡地改修工事(丁張・地先境界ブロックの設置、インターロッキングブロック舗設(約200㎡)) 実施日時: 7/25、9/6、9/13、9/27、10/18、10/25、11/1、11/8、12/6の計9回(9:00～12:30) 対象者 : 上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科里山コース3年生20人 実施場所: 伊那市 春日公園内 協力等 : 伊那市、長野県建設業協会伊那支部、長野県測量設計業協会南信支部						
	【成果】 ・令和4年度の建設産業への就職人数は1人であった。 ・事業実施後のアンケートより、『建設業についての理解』について、約7割の生徒が建設業の理解が深まったと回答した。『建設業に対する印象の変化』については、「良くなった」が47%、「変わらない」が53%であり、マイナスの印象はなかった結果から、事業を実施した成果として評価できる。						
今後の方向性	今年度を踏まえ、今後は早い時期(4～5月頃)から事業を取り組むことで、生徒に建設産業を早く知ってもらい、就職を考えてもらえるようにする。						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C	令和5年3月28日	
横断的な課題	上伊那地域の未来を担うひとづくり						
地域重点政策	地域に学び地域を支える人材の育成					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	地域の先端技術産業を学ぶ体験学習事業				電話	0265-76-6825	
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	林業分野における先端技術の体験や仕事の内容を魅力的に紹介することにより、若者の林業への就業促進を図る。					
	現状と課題	森林資源が成熟し主伐・再造林の取組が始まるほか、手入れのされない森林の整備を進める森林経営管理制度が令和元年度から始まるなど、林業は益々の担い手を必要としている。他方で上伊那地域の就業者数及び新規就業者数は近年ほぼ横ばい(令和3年度:就業者、新規就業者14人)で推移しているものの、人口減少などの理由から林業の担い手確保は大きな課題となっている。 地域産業としての林業を持続可能なものにするためには、新規就業者の確保が不可欠であり、進路を決める過程の高校生を対象とした林業を知ってもらう取組が必要。					
	内容 (変更後の内容)	○ 林業体験研修会の開催 次世代を担う上伊那農業高校の生徒(2学年)を対象に、林業に従事する講師から仕事の内容をお聞きするとともに、先端技術を活用した林業機械の操作体験(シュミレータによる林業機械の疑似操作)や高性能林業機械の実機の見学、林業関係への就業や進学方法の紹介を行う。 実施予定日:令和5年2月14日(火) 実施場所:上伊那農業高校					
	事業期間	令和5年1月 ~ 令和5年2月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	林業体験研修会	林業従事者を講師にした座学、シュミレータを活用した機械操作実技、高性能林業機械の見学など	227,430	大学准教授級 5,300円 × 3時間 ハーベスタシュミレータ 79,530円 ハーベスタ 132,000円			
	合計		227,430				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	アンケート結果で就職先や進学先として、「林業や木材関係を検討したい」との回答		50%以上	60%	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	林業に関する仕事の紹介と就労環境に対する機械化などの業界の取組を具体的に紹介し、その技術を体験することで楽しくわかりやすい研修会となるよう努めた。 また、上伊那農業高校OBに講師陣に加わっていただき、より生徒に身近な研修とした。 病気などによる欠席者がいたため15名の生徒が参加し、研修後のアンケートでは林業に関心を持った生徒が80%、林業を就労や進学を選択肢として考えたい生徒が60%となった。						
今後の方向性	継続実施し、林業の担い手確保に努める。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	令和5年4月20日	
横断的な課題	暮らしたい、暮らし続けたい「しあわせのまち」づくり						
地域重点政策	“伊那谷らしく”豊かで活力に満ちた暮らしづくり					上伊那地域振興局	
実施機関	長野県諏訪児童相談所・長野県飯田児童相談所			担当課	所属	長野県諏訪児童相談所	
事業名	地域の子育て支援体制強化事業				電話	0266-52-0056	
					E-mail	suwajido@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	子どものライフステージや育ちの基盤となる家庭環境の課題に対して、包括的な切れ目のない支援体制を検討する。また、上伊那地域においては子育てサービスの担い手である養育里親を含めた人材や社会資源が十分でないことから、これらの拡充を図ることにより、上伊那地域を官民協働した子育て支援の先進地とすることを旨とする。					
	現状と課題	令和3年度上伊那地域の子育て支援体制のあり方検討会を実施した結果、次の(1)から(3)の課題あることが明らかになった。 (1)乳幼児期から義務教育修了後の進学、就労といった子どものライフステージに加え、育ちの基盤となる家庭環境の課題(孤立化、保護者の障がい、貧困等)に対して、包括的な切れ目のない支援体制づくりが求められている。 (2)母子の預かり支援、障がい児支援や子どもの居場所など地域のニーズは大きい、上伊那地域では受け手となる養育里親を含めた人材や社会資源が不足している。 (3)子育て支援に関する各市町村の情報共有の場が、上伊那地域ではこれまでなかった。					
	内容 (変更後の内容)	(1)地域の子育て支援体制あり方検討会(検討会年4回、研修会1回) 上伊那地域をモデルとし、市町村規模にかかわらずどのような子育て支援体制のあり方が望ましいか有識者を招いて検討会を実施する。また、子育て支援について企業や民間支援機関にアンケート調査を実施し、感じている課題や実態を把握するとともに、企業等を巻き込むきっかけとする。これらの取り組みにより上記課題をさらに掘り下げるとともに、具体的な解決策を探ることで、上伊那地域における子育て支援について一定の方向性を示す。 (2)養育里親等巡回相談会の実施(月1回) 養育里親等登録希望者向けに、上伊那地区市町村を会場とした養育里親登録者による巡回相談会を定期的に実施する。 (3)里親制度紹介パネル展の開催 里親家庭での子ども達の生活の様子や里親制度を紹介するパネル等を作成し、地域を巡回するパネル展を開催する。 実施場所:駒ヶ根市役所(予定)、実施日:3月					
	事業期間	令和4年4月					～
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	地域の子育て支援体制あり方検討会	有識者(大学教授等)を招いた検討会(4回)及び研修会	209,085	助言者及び講師報償費:57,600円、助言者、講師及び委員旅費:110,663円、需用費25,822円、役務費15,000円			
	養育里親等巡回相談会	養育里親登録者による巡回相談会の実施(月1回)	49,724	里親報償費:31,000円、里親旅費:18,724円			
	里親制度紹介パネル展	里親家庭での生活の様子等紹介するパネル展の開催	108,746	パネルの作成:108,746円			
	合計		367,555				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	里親制度に関する地域住民等からの問い合わせ件数		30件	36件	○ 達成		
	新規の里親登録希望者数		10件	2件	● 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援体制あり方検討会では、西日本こども研修センターあかしセンター長 藤林 武史氏を助言者に招き、今年度は主に、地域における子育て支援体制を拡充するためには官民が協働する必要があることを共有するとともに、そのために今後官民協働によりどのような工夫ができるかなどそれぞれの立場からグループ討議を中心とした検討を行った。また、子育てに関する包括的な切れ目のない支援体制づくりのためには必要不可欠となるケースマネジメント手法について、事例等を通じて実際に体験することで理解を深めた。 ・養育里親等巡回相談会については、11回開催し7件の参加があった。参加者からは「里親から直接話を聞くことができ、よりイメージが深まった」との感想が多く聞かれ、登録調査に進むことを希望した世帯も1件あった。また、参加には至らなかったが相談会の問い合わせから、個別の来所相談後、登録調査につながった世帯も1件あった。 ・里親制度紹介パネル展については、駒ヶ根市役所を会場に令和5年3月13日(月)から17日(金)の5日間開催した。市役所来場者を中心に多くの方の目に触れる機会となった。 						
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年4月施行となる市町村こども家庭センターの設置や地域のマンパワー不足など地域の子育て支援については課題も多い。このため地域の子育て支援体制あり方検討会の継続開催により官民協働した支援体制づくりを図るとともに、里親制度普及啓発フォーラムや里親制度紹介パネル展に併設する相談会を開催することで地域のマンパワーとなる養育里親の新規掘り起こしを図りたい。 						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和4年8月23日

提出区分	実績	整理番号	7	課題区分	C	
横断的な課題	リニア中央新幹線の開業を見据えた広域観光の推進					
地域重点政策	南信州、木曾地域と連携した観光地域づくり					
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	環境・廃棄物対策課
事業名	中央アルプス国立公園化指定記念環境スタディツアー事業				電話	8-236-2687
					E-mail	kamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	中央アルプス国立公園の貴重な自然環境をより一層保護し、次世代へ引き継いでいくため				
	現状と課題	中央アルプス国立公園は、千畳敷カールを中心に、景観、地形や動植物など貴重な自然環境を有しているが、公園利用者数は年々減少しており、更なる利活用の推進を図る必要がある。自然公園としての価値を高め、利活用を推進していくためには、地域の貴重な自然環境をより一層保護し、次世代へ引き継いでいく機運を醸成することが必要である。また、昨年度の開催結果を踏まえ、開催内容は変更する必要はないが、周知募集方法を変更し、参加人数の増加を図る必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	中央アルプスの千畳敷カールを中心に、地質、歴史、動植物等を中心としたレクチャーを行いながら公園内を視察し、自然保護意識の醸成を図る。(開催内容はR3と同様) ○周知方法 募集1ヶ月前に教育委員会に開催案内を各小学校へ周知し、 ながの電子申請を利用した参加者募集 ○対象 地元児童(小学校高学年)とその保護者15組(30人)×2回 ○講師 NPO法人 南信州山岳ガイド協会 ○実施日 7月30日(土)、7月31日(日)				
事業期間	令和4年7月 ~ 令和4年8月					
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	環境スタディツアー	千畳敷カール自然観察会	190,781	謝金	10,000円/1人×6人	
				交通費	大人3,790円×12人 小人1,890円×12人	
				傷害保険料	500円/1人×26人	
				旅費	大人3,790円×12人	
	合計		190,781	通信費	郵便41通 4,141円	
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	参加者数		60名以上	24名	○ 達成	
	参加者満足度		80%以上	100%	● 一部達成	
事業実績・成果	・募集について、県ホームページにて周知を行うとともに、市町村教育委員会を通じて全小学校にチラシを配布した。また、報道機関に資料提供を行った。また申し込み方法を、ながの電子サービス・電話・Faxの多チャンネルとした。					
	・7月30・31日の各日15組・30名の募集に対し、参加者数は12組・24名と目標を下回った。小学校等で新型コロナウイルス感染症まん延により応募を控える者がいたことが考えられる。開催曜日、周知・募集方法などは今後の課題としたい。					
・参加者に対しアンケート調査を行ったところ、回答をした全員が本事業を「よかった」と評価した。また、「家族だけで登っても知ることのない知識を教えていただけた」「自然をもっと大切にしようと思った。何年後も同じ景色が見られるよう日々の生活を意識したい」等の意見が出された。自然環境・保護に対する機運の醸成につながった。						
今後の方向性	より多くの参加者が集まるよう募集方法などを検討した上で、今後も継続して実施したい。					

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C	令和5年3月23日	
横断的な課題	伊那谷の豊かな地域資源を活かした循環社会づくり					上伊那地域振興局	
地域重点政策	地域におけるゼロカーボンの実現に向けた推進体制の構築						
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	環境・廃棄物対策課	
事業名	ゼロカーボンセミナー事業				電話	8-236-2687	
					E-mail	kamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	2050年のゼロカーボン実現には、あらゆる主体と協働した取組が必要であり、特に、事業者と市町村は、ゼロカーボンに取組む意義や重要性について理解を深めるとともに、ゼロカーボンへの取組を自分ごととし、できることを積極的に実践し行動することが求められる。 ゼロカーボン社会の実現に向け、事業者、市町村がそれぞれの課題等を整理した上で、今後の実践につなげていくことを目的とする。					
	現状と課題	上伊那管内では事業者、地域住民(市町村)、県がそれぞれ目標達成に向けた行動を起こしつつあるものの、組織ごとに目的意識、方法等に温度差があるなど、それぞれが連携し一体となって取り組む体制には至っていないのが現状である。長野県ゼロカーボン戦略に掲げられた目標を達成するため、事業者、市町村、県がそれぞれの役割分担により一体となって推進するための体制構築を図る。					
	内容 (変更後の内容)	<p>本県では、2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガス正味排出量を実質ゼロとし、持続可能な脱炭素社会づくりを目標とする「ゼロカーボン戦略」を策定した。策定された「長野県ゼロカーボン戦略」に掲げられた目標を達成する為にはあらゆる主体と協働した取組が必要である。上伊那管内においても事業者、市町村、県が目的意識を共有し、共通の目標に向けた事業の推進を図るためにセミナーを開催する。</p> <p>【概要】 日時：令和5年1月26日(木) 場所：伊那市生涯学習センター(伊那市荒井3500番地1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 ゼロカーボンとは何か、地球温暖化の最新状況を踏まえ、分かりやすく学べる内容で気候危機、地球温暖化に関する地域課題や、持続可能な社会との関連等からポストコロナ社会を見据えて、ゼロカーボンに取り組む意義や必要性について学べる基調講演をおこなう。 ・分科会(事業所・市町村) それぞれ会場を分けて他地域等の取組事例紹介後、意見交換を適切にファシリテートできるファシリテーターのもと、セミナー後に具体的にどのような行動を実践できるか議論する。 ・全体会 ファシリテーターによるそれぞれの分科会で出された意見等の発表。 基調講演講師による全体のまとめ。 					
	事業期間	令和4年10月		～	令和5年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	ゼロカーボンセミナー in 上伊那	事業者、市町村、県が参加するセミナーを開催	990,000	セミナー運営委託料(プロポーザル方式により、委託事業者を選定)			
	合計		990,000				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	参加者数(当日参加+ライブ配信視聴)		100名以上	141名	● 達成		
	参加者満足度		70%以上	95%	○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開催案内について、県ホームページにて周知を行うとともに、管内企業500社に案内通知送付、上伊那管内情報誌「月刊かみいな」、長野日報紙面に掲載。 ・コロナ対策としてYouTubeによるライブ配信及びアーカイブ配信を実施。 ライブ配信視聴実績78回 アーカイブ配信視聴実績(累計)110回 ・事前参加申込者 77名、当日参加者 63名(事業者15社29名、自治体関係者28名等) ・参加者に対しオンラインによるアンケート調査を行った。回答をした95%が本事業を「満足」と評価した。また、「目から鱗の取組をたくさん知ることができた」「実践的な具体例が参考になりました」等の意見が出された反面、「時間配分が難しく、駆け足となった」、「一人一人のお話をもう少しじっくりと聞きたかった」等の運営方法へ意見もあり、運営の見直しなど今後の課題としたい。 ・ゼロカーボン社会の実現に向け、事業者、市町村がそれぞれ具体的な取組につなげていくことが期待できる。 						
今後の方向性	ゼロカーボンの目標達成に向けた啓発活動に繋げていきたい。						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C	令和5年4月12日
横断的な課題	リニア中央新幹線の開業を見据えた地域づくり					
地域重点政策	二つのアルプスを活かした交流圏域づくり					上伊那地域振興局
実施機関	上伊那地域振興局・南信州地域振興局・木曾地域振興局			担当課	所属	商工観光課
事業名	リニア3地域(上伊那・南信州・木曾)の広域観光推進事業				電話	0265-76-6832
					E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	3地域(上伊那・南信州・木曾地域)連携による観光誘客に向けた具体的な取組の推進				
	現状と課題	リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を見据え、上伊那・南信州・木曾地域の観光事業者と地域振興局が連携し、リニアバレー構想に基づく周遊滞在型観光コンテンツの作成や受け入れ環境整備など具体的な事業に取組む必要がある。 一方、現状は3地域観光事業者等による連携体制の構築に至っておらず、県には、3地域連携による広域観光を推進するため、実証を通じた具体的な検討や取組が求められている。 令和3年度は、地域振興推進費事業を通じ、地域連携DMO(観光地域づくり法人)を中心として3地域観光関係者の検討組織が立ち上げられ、地域間相互の観光コンテンツの調査研究や、中京圏の旅行業社及びメディア関係者を招請したファムトリップ実施など、3地域連携による観光誘客の足場づくりの年となった。 今後は、こうした取組を継続させ、誘客に結びつかせるため、旅行商品の実売など出口を見据えたより具体的な検討を行う必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	○周遊モデルコースの検討 ・リニア長野県駅(飯田市)及び岐阜県駅(中津川市)を起点終点とした周遊モデルコースを5本以上検討する。 ・コース毎に効果的なコンテンツを選定するとともに、各コースのストーリー、ターゲット層、対象地域、移動手段、販売単価、誘客手法、成果指標についても検討し設定する。 ・観光トレンド等マーケティング情報、3地域観光資源分析結果(令和2年度推進費事業)、広域周遊観光にかかる他地域の動向、先進事例分析結果等を活用し、競合他地域との差別化やストーリー化を行う。 ・モデルコース実売に向けた地域間事業者間のマネジメント体制検討及び課題の洗い出しを行う。 ・旅行商品販売事業者など外部有識者を招請し、地域が売りたい観光資源のみならず、消費者や旅行事業者の視点も取り込みながら事業を実施する。				
事業期間	令和4年6月 ~ 令和5年3月					
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	3地域広域観光推進事業	3地域周遊滞在モデルコース検討	2,884,200	(各局961,400円)		
	合計		2,884,200			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	周遊滞在モデルコース		5本	10本	● 達成	
					○ 一部達成	
					○ 未達成	
事業実績・成果	上伊那・南信州・木曾のDMO、観光関係者及び有識者(旅行事業者及び観光機構)を招請し、令和4年7月から令和5年3月にかけて、計8回の検討会を実施した。 旅行市場をめぐる動向や実際に商品を販売している旅行事業者の視点について有識者の講演を聞き、参加者の認識を共有したうえでコース設定にかかる諸要素の検討を行い、計10コースを周遊モデルコースとして設定した。 1: 夜空と大地が織りなす絶景のなかで過ごす時間旅行、2: 護られし実りの國/南アルプスと天竜川の恵み、3-1~4: 本物のアクティビティに会いに行く、4: 日本一標高の高いホテル「ホテル千畳敷」に泊まる ゆったり千畳敷・しらび平スノーシュー、5: 登山初級 木曾駒ヶ岳登山、6-1: 木曾路中山道体感コース(サイクリングコース)、6-2: 秘境ジオサイクリング					
今後の方向性	上記モデルコースの活用を含め、流通環境整備やプロモーション、コンテンツのブラッシュアップや情報発信に取り組むプラットフォーム構築の必要性が課題として示された。 今年度の検討会をベースとし、各地域のベクトル合わせを踏まえた今後の事業展開について継続して検討していく。					

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月14日

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C	
横断的な課題	上伊那地域の未来を担うひとづくり					
地域重点政策	伊那谷の未来を担う人づくり					
実施機関	上伊那地域振興局、南信州地域振興局			担当課	所属	企画振興課
事業名	伊那谷deキャリア教育研修会事業				電話	0265-76-6801
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp
事業概要	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業を見据え、産学官だけでなく地域住民を巻き込んだキャリア教育の取組を進めるとともに、上伊那・下伊那の情報共有・協働を促進することで、キャリア教育の一層の充実を図り、伊那谷全体で子供たちの「生きる力」を育む。				
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那谷においては、今後、リニア中央新幹線の開業により、首都圏や中京圏とのアクセス性が大幅に向上し、地域の子供たちの進学・就職における選択肢が大きく広がることが予想される。また、現在、テレワークや副業など新しい働き方が全国的に浸透してきており、ライフスタイルの多様化が一層進むことが見込まれる。このように、しごとや暮らしを取り巻く環境が大きく変化していく伊那谷において、「生きる力」を育むキャリア教育の重要性が増している。 ・これまで、上伊那地域・下伊那地域のそれぞれの地域において、しごと体験や社会活動を通し、生きる力を学ぶキャリア教育の取組が進められてきた。また、昨年度には第1回の伊那谷全体のキャリア教育研修会が開催され、両地域の連携に向けた取組がスタートしたところ。引き続き、伊那谷全体の課題として、広域的な取組を進める必要がある。 ・また、キャリア教育の推進に当たっては、地域で暮らし、働く大人たちが大きな役割を担うことから、これまでの取組の中心であった産学官の関係者だけでなく、地域住民もその必要性を理解し、一丸となって取り組んでいくことが重要である。 				
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ: ふるさと“伊那谷の未来をデザインする”私、あなた、地域 ○日時: 令和4年11月19日(土) 13時00分～16時30分 ○会場: 宮田村民会館 ○参加者: 250名 (会場150人+オンライン100人のハイブリッド開催) ○内容: 講演会、交流会(グループワーク) ○講師: 内山節氏 <p>※教職員、PTA、地域住民、企業経営者、市町村職員等、人材育成に関心のある者に広く参加を呼び掛ける。(昨年度参加者数:161名) ※参加者が自ら考え、次の行動につなげるきっかけとなるよう、単なる講演会ではなく、グループワークを含む研修会として開催する。</p>				
	事業期間	令和4年8月 ~ 令和4年11月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	研修会	講演会、交流会	417,539	講師等謝金237,200円、講師等旅費36,203円、消耗品等19,053円、会場使用料72,400円、椅子レンタル39,600円、リーフレット印刷代13,083円		
	オンライン参加にかかる調整	オンライン開催	203,500	オンライン対応業務委託203,500円		
	周知	チラシ及びポスター作成	99,990	チラシ・ポスター作成99,990円		
	合計		721,029			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	開催後アンケート(満足度)		85%	88%	○ 達成	
	参加人数		200人	144人	● 一部達成	
					○ 未達成	
事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ10,000枚、ポスター200枚を製作し、上伊那地域・南信州地域の小学校・中学校・高校、市町村、公民館、産業界の関係団体等に配布・参加を呼びかけた。 ・参加人数は144名(現地113名、オンライン31名)と、目標値を下回った。地域住民が参加しやすいよう、昨年度は平日であった開催日を土曜日としたことで、教職員や企業関係者の参加が伸び悩んだことが一因と考えられる。 ・参加者に対し実施したアンケート(回答数:62名)では、回答者の88%が「とても満足」「やや満足」と回答し、目標値を上回った。内山氏による講演や、上伊那・下伊那の多様な参加者と語り合う機会となったことを評価する意見が多かった一方で、キャリア教育と地域づくりの関係の分かりにくさや、交流会でのゴールの設定がなく成果として残らないことを指摘する意見もあった。 					
今後の方向性	地域住民の意識の醸成を促進するとともに広域的な関係者のつながりを強化するため、南信州地域振興局と連携し、学生等による事例発表を取り入れる等、内容を充実させながら継続して開催していきたい。					

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月17日

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	A
横断的な課題					
地域重点政策					

上伊那地域振興局

実施機関	上伊那地域振興局	担当課	所属	林務課
事業名	放置竹林整備体制構築事業		電話	0265-76-6825
			E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp

事業の概要	目的 (目指す姿)	長期間放置された竹林や藪を地域住民自ら整備するための技術や安全知識を持つ地域リーダーを育成することを持って、地域課題を自らの力で解決できる地域づくりを進める。
	現状と課題	上伊那地域は野生獣害に悩まされ、森林に沿って防護柵を設置したり有害鳥獣駆除を実施するなどの対策を図ってきたが解消に至らない(R3農林業被害額6,125千円 対前年119%)。更に近年はツキノワグマの出没が相次ぎ、それによる人身事故も起きている。 森林に生息する動物は自身が隠れる場所を移動することから、人間の生活圏との間に隠れる場所を作らないことが被害軽減策として有効。しかし人間の生活圏近くでは沢沿いなどの竹林や藪が放置され、むしろ以前より野生動物との距離が近づいている状況。また、放置された竹林や藪は、見通しの悪さや成長旺盛さから道路まで張り出したり風雪による倒れこみが起こり、道路等の通行の支障になっている。 伊那市では50年の森ビジョンの取組で放置竹林を落とし込んだマップを作製したが、その解決方法について相談が来ている。また他市町村でも放置竹林が課題となっている。 これらの整備には機械や道具の取り扱い、作業の段取りなどの知識や技術が必要であり、この技術や知識を持つ地域リーダーを育成することが必要。
	内容 (変更後の内容)	○「竹林整備講習会」、「刈払い機講習会」の開催 伊那市内の放置竹林等の問題を抱える地域を牽引する方に対し、竹林整備の手法や技術、刈払い機を使用した安全作業に関して学び、地域リーダーとなるための講習会を行う。 実施日: 令和5年3月4日、11日 実施場所: 伊那市内の里山
	事業期間	令和5年2月 ~ 令和5年3月

事業費等	(単位: 円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	竹林整備講習会	放置竹林を見通しの効く健全な竹林に整備するための秘術講習	73,878	講師謝金 2名×33,000円 ※講師団体の規定による額 旅費(費用弁償) 7,878円
	刈払い機操作講習会	刈払い機の安全な使用方法を取得するための技術講習	41,370	講師謝金 3名×10,600円 需用費(刈払い刃等) 9,570円
合計			115,248	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	伊那市内の地域リーダーの育成	10人	14人	● 達成
				○ 一部達成
				○ 未達成

事業実績・成果	伊那市と協力して地域リーダーの参加を募り、市内7地区から14人の参加を得て開催した。 竹特有の生態・利用目的に合った竹林の仕立て方・整備手順や作業道具・安全な機械操作などのテキストを作成し参加者にあたえることができた。 特に技術面では今までの間違った知識を正しつつ、参加者の実践を主体に進め、充実した研修となった。 研修後は、地域活動の進め方や国庫交付金の活用方法を説明し、地域課題を住民の活動で解決できることをアピールすることが出来た。 新聞報道を見た管内在住者から後日問い合わせがあるなど、今後の地域への波及が期待できる。
---------	---

今後の方向性	他の市町村への横の広がりや、地域住民への取組の必要性の理解を目指し継続実施したい。
--------	---